



新着本案内10月号

愛知みずほ大学瑞穂高等学校
瀬木学園図書館
2021年10月6日

『ちょさく犬が答える!SNS時代の著作権』
野田佳邦著 (021.2/ノ)



パクツイは法律違反?ゲーム実況は著作権侵害?など、SNSからビジネスまで、著作権に関する質問についてちょさく犬が答えます。

『大人も知らない?ふしぎ現象事典』
「ふしぎ現象」研究会編 (049/フ)



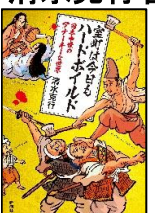
テストの前の日になると部屋の掃除がしたくなるなど、身の回りによくある現象や体の不思議な現象の名前を、楽しいイラストで紹介しています。

『本当は怖い日本の神話』
古代ミステリー研究会編 (164.1/コ)



日本神話の裏側を46の項目を通じて紹介し、その闇に迫ります。

『室町は今日もハードボイルド』
清水克行著 (210.4/シ)



日本人が思い描く「日本人像」を根底から覆す、驚愕の日本史エッセイです。室町時代の人々の仰天エピソードを堪能してください。

『世界の不思議な街の空から』
パイインターナショナル編著 (290.87/パ)



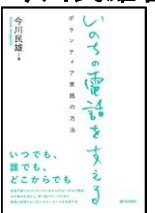
世界中の不思議な街を、空撮・ハイアングルで撮影したダイナミックな絶景写真集です。歴史や人間の営みを垣間見ることができます。

『武器になる「法学」講座』
木山泰嗣著 (321/キ)



法律家は法律をどう読み、どう使っているのかを、具体的なケースを通じて法律の見方・読み方・考え方の基本を解説しています。

『いのちの電話を支える』
今川民雄著 (369.7/イ)



非専門家のボランティアに支えられる「いのちの電話」に長年関わった著者が、現場と研修からつむいだエッセンスを伝授します。

『数学クラスタが集まって本気で大喜利してみた』
いっくん著 (410.79/ス)



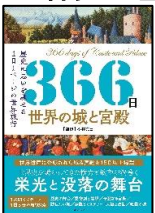
数学の面白いトピックをTwitterで発信する「数学を愛する会」が、実際に出した大喜利の問題に寄せられた解答を紹介しています。

『生物発光の謎を解く』
近江谷克裕, 三谷恭雄著 (431.54/オ)



生物発光のメカニズムを解説し、発光するさまざまな生物、生物発光が応用されている医療や科学の現場についてわかりやすく説明しています。

『366日世界の城と宮殿』
小林克己監修 (520.2/コ)



世界各地の城や宮殿の写真を鑑賞しながら、人生を豊かにする教養を身に着けることができる本です。

『江戸式マーケ』川上徹也著 (675/カ)



江戸時代の商人たちの、マーケティング戦略・イノベーション・ビジネスモデルなどをわかりやすく解説しています。

『お菓子の箱だけで作る空箱工作』
『お菓子の箱だけで作るすごい空箱工作』
はるきる著 (754.9/ハ/1~2)



お菓子の箱ほぼ1箱だけで作れる5つの空箱工作を、全プロセスカット&型紙付きで掲載!

『日本刀の驚くべき技術』
齋藤勝裕著 (756.6/サ)



日本刀の歴史や製法の他に、刀の原料となる鋼をうみだす製鉄技術など、日本刀の構造や将来の刀について詳しく紹介しています。

『学校では教えてくれないゆかいな漢字の話』
今野真二著 (811.2/コ)



日本語の歴史と深く結びついている漢字を、たのしくゆかいに知ることができます。

『教科書と近代文学』
日本近代文学館編 (910.26/ニ)



高校国語教科書の定番教材である「羅生門」「山月記」「舞姫」「こころ」。各作品と時代背景を、第一線の研究者がやさしく解き明かします。

『夏井いつきの俳句道場』
夏井いつき著 (911.03/ナ)



俳句入門レベルを抜け出したい人におすすめの本です。むずかしいテーマの俳句の攻略手法をひとつひとつ考察していきます。

『稲川怪談』稲川淳二著 (913.6/イナ)



怪談家稲川淳二が50年にわたり、収集・研究・創作し、語ってきた「稲川怪談」の中から選りすぐりの40作品を、定本としてまとめています。

『霧をはらう』栗井脩介著 (913.6/シズ)



病院で起きた、幼い子ども4人の点滴死傷事件。逮捕されたのは生き残った女兒の母親。人権派の大物弁護士らと共に、若手弁護士の伊豆原は勝算のない裁判に挑む!

『これはただの夏』燃え殻著 (913.6/モエ)



テレビ制作会社の仕事に忙殺されながら生きてきた「ボク」は、ひよんなことから小学生の面倒をみることになった。

『風よ僕らの前髪を』
弥生小夜子著 (913.6/ヤヨ)



☆第30回鮎川哲也賞優秀賞受賞
☆夫が殺害され、妻は養子の志史を疑った。身辺調査を依頼された元探偵事務所員は、志史の異様な人間関係を覗き見ることになる。

『見知らぬ人』
エリー・グリフィス著/上條ひろみ訳 (933.7/グリ)



☆アメリカ探偵作家クラブエドガー賞最優秀長編賞☆殺害された同僚の遺体のそばに、伝説的作家ホルランドの短編「見知らぬ人」に繰り返し出てくるフレーズが書かれたメモが残されていた。

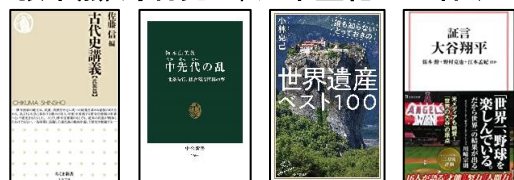
新書

『古代史講義 氏族篇』佐藤信編 (210.3/サ)

『中先代の乱』鈴木由美著 (210.45/ス)

『誰も知らないとおきの世界遺産ベスト100』小林克己著 (709/コ)

『証言大谷翔平』
張本勲, 野村克也, 江本孟紀ほか著 (783.7/オ)



文庫

『古今東西トンデモな法律』
オフィステイクオー著 (320.4/オ)

『合唱組曲・吸血鬼のうた』
赤川次郎著 (913.6/アカ)

『威風堂々悪女 7』
白洲梓著 (913.6/シラ/7)

『ほんものの魔法使』
ポール・ギャリコ著/矢川澄子訳 (933.7/ギヤ)

